

新学習指導要領に向けて一授業形態の違いと生徒の到達度一

著者	呵部 雄太, 荒納 郁美, 北野 真理恵, 真木 啓生
雑誌名	高校教育研究
号	73
ページ	41-52
発行年	2022-03
URL	http://doi.org/10.24517/00067165



新学習指導要領に向けて

— 授業形態の違いと生徒の到達度 —

英語科 阿部 雄太, 荒納 郁美
北野真理恵, 真木 啓生

キーワード：GTEC for students 新学習指導要領

1. はじめに

本校は1科目1担当制であり、また研究校ということもあり、授業方法が英語科4人で統一のものがない。その都度試行錯誤を繰り返しているが、それによって定着度に違いがないかどうかの振り返りができていない。そんな中、本校がGTEC for studentsを採用しだして6年が経った。それぞれの回生のGTEC点数データを見ながら、それぞれの授業の形態を洗い出し、次の新学習指導要領につなげていきたい。

2. 成績データ

(1) 72回生

年度	2017	
学校名	金沢大学附属	
学校コード	17101	
学年	高校1年生	
回	31回B	
コース・科目	Total(3技能)	
受検人数	121	
平均スコア	691.9	
満点	810	
スコア(人数)	単純	累積
810		
800		
790	1	1
780	3	4
770	2	6
760	3	9
750	2	11
740	7	18
730	2	20
720	4	24
710	2	26
700	2	28
690	3	31
680	4	35
670	5	40
660	4	44
650	6	50
640	6	56
630	3	59
620	4	63
610	2	65
600	10	75
590	6	81
580	8	89
570	11	100
560	1	101
550		101
540	4	105
530	3	108
520	3	111
510	1	112
500	3	115
490	1	116
~490	5	121

(2) 73回生(現3年)

年度	2019		2020	
学校名	金沢大学附属		金沢大学附属	
学校コード	17101		17101	
学年	高校1年生		高校2年生	
回	37回A		41回A	
コース・科目	Total(3技能)		Total(3技能)	
受検人数	119		118	
平均スコア	687.1		718.2	
満点	900		900	
スコア(人数)	単純	累積	単純	累積
900	1	1		
890	1	2		
880	2	4		
870	2	6		
860	1	7		
850	3	10		
840	1	11		
830	1	12		
820	3	15		
810	8	23		
800	1	24		
790	1	25		
780	2	27		
770	4	31		
760	2	33		
750	1	34		
740	1	35		
730	2	37		
720	3	40		
710	4	44		
700	6	50		
690	5	55		
680	4	59		
670	9	68		
660	8	76		
650	8	84		
640	3	87		
630	3	90		
620	3	93		
610	4	97		
600	4	101		
590	5	106		
580	3	109		
570	1	110		
560	1	111		
550	3	114		
540	3	117		
530	2	119		
520	2	121		
510	1	122		
500	1	123		
490	1	124		
~490	1	125		

(3) 74回生(現2年)

年度	2020		2021	
学校名	金沢大学附属		金沢大学附属	
学校コード	17101		17101	
学年	高校1年生		高校2年生	
回	41回A		43回A	
コース・科目	Total(3技能)		Total(3技能)	
受検人数	124		118	
平均スコア	654.4		708.9	
満点	900		900	
スコア(人数)	単純	累積	単純	累積
900~				
900			2	2
890			2	4
880	1	1	3	7
870	1	2	11	18
860	1	3	3	21
850	1	4	2	23
840	5	9	2	25
830	5	14	13	38
820	2	16	4	42
810	1	17	9	51
800	3	20	5	56
790	1	21	20	76
780	3	24	15	91
770	1	25	4	95
760	2	27	1	96
750	1	28	7	103
740	1	29	4	107
730	3	32	5	112
720	3	35	5	117
710	2	37	7	124
700	5	42	6	130
690	5	47	5	135
680	2	49	8	143
670	6	55	4	147
660	11	66	8	155
650	6	72	5	160
640	5	77	8	168
630	5	82	2	170
620	9	91	5	175
610	7	98	3	178
600	12	110	1	179
590	4	114	3	182
580	3	117	3	190
570	8	125	1	191
560	2	127	1	192
550	1	128	1	193
540	4	132	1	194
530	1	133	2	196
520	2	135	2	198
510	1	136	1	199
500	1	137	1	200
490	1	138	1	201
~490	1	139	1	202

(4) 75回生(現1年)

年度	2021	
学校名	金沢大学附属	
学校コード	17101	
学年	高校1年生	
回	47回A	
コース・科目	Total(3技能)	
受検人数	119	
平均スコア	684.9	
満点	900	
スコア(人数)	単純	累積
910		
900	1	1
890		
880	1	2
870		
860	1	3
850	1	4
840		
830	1	5
820	1	6
810	1	7
800	3	10
790	2	12
780	4	16
770	5	21
760	1	22
750	1	23
740	5	28
730	5	33
720	6	39
710	6	45
700	8	53
690	5	58
680	2	60
670	6	66
660	11	77
650	6	83
640	5	88
630	5	93
620	9	102
610	7	109
600	4	113
590	3	116
580	4	120
570	4	124
560	5	129
550	1	130
540	2	132
530	1	133
520	2	135
510	1	136
500	1	137
490	1	138
~490	1	139

3. 授業で扱ってきたこと

(1) 72回生（現大学1年生）

3年	コミュ英Ⅲ(5) 荒納		英表Ⅱ(2) 真木	
2年	コミュ英Ⅱ(4) 荒納	表ⅡA(1) 北野 荒納	表ⅡB(1) 北野	
1年	コミュ英Ⅰ(3) 荒納	表ⅠA(1) 横野	表ⅠB(1) 横野	

【1年次】

コミュニケーション英語Ⅰ

使用教材：

ATLANTIS Hybrid English CommunicationⅠ

授業内容：（予習なし）

①単語チェック

パワーポイント→ペアワーク

②本文速読

③本文内容把握

要約スライド

④本文音読 ペアワーク

⑤本文リフレーズ ペアワーク

⑥家庭復習用に授業で扱ったスライドプリントを配布。要約スライドを用いて、自分の言葉でパート毎に伝えられることを目標とした。

表現ⅠA（英語表現Ⅰ／1単位）

使用教材：自作プリント

授業内容：

JTE 1名、ALT 2名で担当

ペアワークを主体として、スピーキング活動を行った。

表現ⅠB（英語表現Ⅰ／1単位）

使用教材：Vision Quest English ExpressionⅠ
（啓林館）

授業内容：

文法説明の後、教科書の問題を解いた。

【2年次】

英語Ⅱ（コミュニケーション英語Ⅱ／3単位）

使用教材：

ATLANTIS Hybrid English CommunicationⅡ

授業内容：（予習なし）

①単語チェック

パワーポイント→ペアワーク

②本文速読

③本文内容把握

要約スライド

④本文音読 ペアワーク

⑤本文リフレーズ ペアワーク

⑥本文発展内容表現活動

本文に関連した内容（所見）を、相手に英語で伝える。

⑥家庭復習用に授業で扱ったスライドプリントを配布。要約スライドを用いて、自分の言葉で教科書本文についてだけでなく、関連した内容も伝えられることを目標とした。

SL（コミュニケーション英語Ⅱ／1単位）

試用教材：初級者からのニュース・リスニング

CNN Student News（朝日出版社）

Listening&Speaking Training

Seminar 2（Learns）

授業内容：

- ・1学期 CNN Student Newsを使い、ディクテーション活動を中心に。折に触れて、品詞や相、態といった文法事項についての解説も。
- ・2学期以降 ラーンズの教材で、ディクテーションから音読、Recitationまでの活動を網羅的に行った。

表現ⅡA（英語表現Ⅱ／1単位）

使用教材：Vision QuestⅡ（啓林館）

授業内容：

週1時間をJTE2名、ALT2名で担当した。1クラスを20名ずつに分け、それぞれをJTEとALTのTTで担当した。

・1学期 Paragraph Writing

Vision QuestのPART2を用いてパラグラフの構成について学習した。ディスコースマーカーを適切に使いながら、抽象→具体の順序でパラグラフを構成できるようになることをねらいとした。毎回の授業は、説明→Speaking→Writingの流れで行い、教科書の例文を確認後、例文とは異なるトピックを提示し、本時の学習事項を用いてパラグラフを構成する練習を行った。授業毎の評価はWritingにて行い、評価項目は「構成」と「正確さ」の2つとした。また、パラグラフ構成に関する学習の成果はSpeakingでも評価した。授業内のWritingのとは異なるトピックを事前に7つ提示し、テスト当日はそのうち1つについて2分間でスピーチし、その後スピーチの内容に関するQ&Aを行うというものである。このテストでは、「スピーチの構成及び内容」と「質問に対する応答」の2つを評価項目とした。

・2学期 Discussion

1時間1トピックとし、冒頭1/3はトピックに関するインプットの時間に充てた。インプットは生徒のプレゼンテーションとし、構成はトピックに関する概要と賛否両方の立場からの主張をまとめるものとした。聞き手側はメモを取りながら発表を聞き、そのメモをもとにディスカッションに臨んだ。ディスカッションは教員（JTEまたはALT）1名と生徒10名のグループで実施した。これまでに英語でのディスカッションの経験がない学年であったことから、ディスカッションリーダーは教員が務めた。授業最後の約5分でディスカッションの内容を記録した。各時間の評価は記録シートをもとに行い、

学期末に全ディスカッショントピックからインタビューテストを実施した。今学期の評価は、プレゼンテーション、毎時間の記録シート、インタビューテストにて行った。プレゼンテーションでは「内容（General Information/ Pros /Cons）」と「話し方（声量、アイコンタクト等）」、記録では「内容」、インタビューテストでは「発表内容」と「質疑応答の充実度」を評価した。

・3学期 Informative Speech

先にディスカッションを実施したこともあり、発表後の質疑応答を充実させることを重視し、1人の持ち時間はスピーチ5分+質疑応答3分の計8分とした。スピーチのトピックは聞き手にとって「新情報で興味深いもの」であれば何でもよいこととした。発表は10名ずつのグループで、聞き手を変えて2回ずつ行った。修正等を加えられるよう、2回目の発表日は1回目の2週間後に設定した。評価項目は「内容」と「話し方」の2つとし、教員の評価に加え、生徒は相互評価を行い、点数に加えコメントを添えた。相互評価シートはそれぞれの生徒に発表へのフィードバックとして返却した。

表現ⅡB（英語表現Ⅱ／1単位）

使用教材：Vision QuestⅡ（啓林館）

授業内容：

教科書のPART1を1時間1レッスンの進度で扱った。前レッスンの確認テスト→基本例文に関する解説・補足→パターンプラクティス→Exercisesの流れで行い、時間配分はおおよそ1/3ずつであった。

1年次に一通り文法事項の学習が済んでいることを踏まえ、既習事項の復習と新出事項の導入を抱き合わせながら行った。パターンプラクティスはペアで行い、練習の難易度は生徒自身が選択できるようにした。各自の到達度に応じて、基本例文をそのまま使う生徒から、数カ所を別の表現と入れ替えて負

荷をかける生徒までさまざまであった。Exercises については時間的制約から解説は和文英訳のみとした。生徒が板書した英作文を添削する形式とした。一方的な説明にならないよう、生徒に問いかけながら複数の別解を作ることを目指した。

文法の授業は生徒が説明を聞く時間が長くなりがちだが、生徒が自ら疑問を抱き、それを自ら解決しようとする過程を大切にしたいと考えた。時間効率を顧みず、生徒同士の対話や辞書検索により、生徒が自ら考え答えを見つけられるよう、ヒントを提示ししながら導くことを心がけた。

【3年次】

コミュニケーション英語Ⅲ

使用教材：

『FLEX English Communication Ⅲ』（増進堂）

授業内容

・1・2学期

①本文速読→T/F問題

②単語確認

③本文精読→要約問題等

④本文関連題材（TED TALK等活用）

・3学期

過去入試問題読解

英語表現Ⅱ（2単位）

試用教材：Steady Steps to Writing（数研出版）

システム英作文（桐原書店）

授業内容：

典型的な和文英訳の授業。生徒板書を担当教員が添削。帯活動として、毎回の授業冒頭で文法項目別の小テストを行った。

(2) 73回生（現高校3年生）

3年	コミ英Ⅲ(5) 北野		英表Ⅱ(2) 真木	
2年	コミュ英Ⅱ(4) 北野		表A(1) 荒納 北野	表B(1) 阿部
1年	コミュ英Ⅰ(3) 北野	表A(1) 阿部 真木	表B(1) 阿部	

【1年次】

コミュニケーション英語Ⅰ（単位数：3）

使用教材：CROWNⅠ（三省堂）

チャンクで英単語Advanced（三省堂）

1年次は週3時間で、毎時間の冒頭約10分を帯学習に充て、残りの40分で教科書を扱った。帯学習では『チャンクで英単語』のテストとスピーキング活動を交互に行い、1学期前半には単語学習と併せて発音記号を取り上げた。スピーキング活動では、最初の質問のみを提示し、その後は自由に会話を展開させることとした。相槌や質問を駆使しながら会話を継続・発展させることをねらいとした。トピックは自分の関することなど身近なものから始め、学期ごとに難易度を高くした。

教科書については、単語の意味調べを最低限の予習として課した。授業は、単語→内容理解→音読→リテリングまたは要約の流れを基本とした。内容理解はT/Fのように答えが1つで、正解/不正解が明確な設問で手短に済ませ、多くの時間を音読とサマリーに費やした。音読は①リピート（チャンク）→②リピート（文）→③Buzz Reading→④クレジットロール音読（虫食いなし）→⑤クレジットロール音読（虫食いあり）の順で行い、それぞれの回数は生徒の到達度に応じて決定した。音読の際には一人一人が明瞭な声を出すよう指導し、周囲と声をそろえる必要はないと強調した。リテリング及びサマリーはペアで行ったが、イラストを提示したりキー

ワードリストを配布したりすることはせず、生徒一人一人がゼロから内容を考える活動とした。発表時間の目安は設定したが、タイマーが鳴っても自分が言いたいことを最後まで話すよう指導した。ペア活動は頻繁に行ったが、毎時間同じ相手にならないよう座席の移動も頻繁に行い、生徒ができるだけ多くのクラスメイトの英語を聞くことができたようにした。

この授業ではパフォーマンステストを定期的に行い、1年次は5回行った。内容は、物語の音読や教科書本文のリテリング、教科書の題材に関するプレゼンテーションなどである。テストに際しては、事前に評価の観点を示し、テスト後には個別にフィードバックを行った。

英語表現 I A

使用教材：使用教材：自作プリント

週1コマ。ALTとのチームティーチング。200～300words程度の題材を用意し、インフォメーションギャップ状態によるリテリング活動を行った。また、各学期に1～2回スピーキングのパフォーマンステストを実施した。形式は以下の通り。

- ①レシテーション
- ②インタビュー
- ③ペアスピーキング

英語表現 I B

使用教材：

【Vision Quest English Expression I】

週1コマ。文法シラバスに基づくPPP形式での講義・演習を行った。

【2年次】

コミュニケーション英語Ⅱ（単位数：4）

使用教材：CROWNⅡ（三省堂）

チャンクで英単語Advanced（三省堂）

SDGs英語長文（三省堂）

新型コロナウイルス流行に伴う臨時休業中の取り組みについては『高校教育研究 第72号』にまとめた。本稿では学校再開後の取り組みについて記す。

学校再開後は、新型コロナの感染状況を考慮し、スピーキング活動を絞り込むことに決め、帯学習でのスピーキング活動については年度いっぱい取りやめることにした。単語は1年次同様1時間おきに継続した。

教科書については、題材に関する理解が教科書本文にとどまらないよう、1年次以上に海外ニュースや動画、統計などを積極的に活用した。単語→内容理解→音読までの流れは1年次同様で、2年次にはスピーキング活動の内容を問いに答える形式に変更した。問いは各セクション1つで、一問一答形式ではなく、経緯や因果関係等の説明を必要とするものにした。教科書本文の情報のみで答えるのではなく、背景知識や補足情報、具体例など教科書外の情報も盛り込み、「つながり」と「まとまり」のある話をするよう指導した。

副教材『SDGs英語長文』は、授業で扱う題材の数を増やしたいとの思いから選んだものであり、2冊目の教科書のような位置づけとした。文章が長いため音読は行わなかったが、本文や資料から題材に関する理解を深め、それを基にアウトプット活動を行う授業構成は教科書同様にした。2年次のパフォーマンステストは3回実施し、そのうち2回はこの教材を中心に出題し、グローバル問題について事実と意見を述べるというものであった。

そして、2年次より少しずつ大学入試を意識した問題演習も取り入れた。教科書や『SDGs英語長文』のレッスンを1つ読み終えたタイミングで1時間ず

つ和訳または速読の練習を行った。

表現ⅡA（英語表現Ⅱ／1単位）

使用教材：自作プリント（JET作成）

授業内容：

JTE 2名，ALT 2名で担当

クラスを20人×2で分割し，それぞれをJTE，ALT 1名ずつで担当

・1学期

もともとは個人・グループプレゼンテーションを予定していたが，コロナ禍により断念。

zoom等を使用し，スピーキング活動を行える範囲で行った。

・2学期前半

コロナの状況が落ち着いてきていたので，プレゼンテーションに向けて動く。個人プレゼンならびにグループプレゼンテーションを行った。

・2学期後半～3学期

コロナの状況が悪化したことにより，表現活動をスピーキングからライティングに移行。授業の半分をALTによる講義（内容はSDGs関連からトピックを選定し，ALTに短い講義を作成してもらった）をもち，後半はライティング活動に充てた。A4サイズのプリント半分に，講義の要約（文章でも図でも可），後半分に，トピックに関連する課題を与え，自由英作をさせた。

表現ⅡB（英語表現Ⅱ／1単位）

使用教材：

『Vision Quest English Expression II』（啓林館）

『Message Delivered <Intermediate>

パターンで学ぶパラグラフ・ライティングとプレゼンテーション入門 <中級>』（南雲堂）

週1コマ。パラグラフ・ライティングと文法演習を扱った。導入として、『Vision Quest』のPart 2を用いてパラグラフの内容一貫性と，文と文の結束性

について概要を説明した後，『Message Delivered』を用いて演習活動を行った。演習活動は以下の通り。

①文章構造の分析

②リライト

③入試問題ライティング

文法問題の演習は『Vision Quest』のPart 1を用いて，オンラインで学習スケジュールを提示し，解答解説を提供，確認小テストを実施した。

【3年次】

コミュニケーション英語Ⅲ（単位数：5）

使用教材：CROWN Ⅲ（三省堂）

Cutting Edge Orange（エミル出版）

パワーマックス英語リスニング（Z会）

3年次には帯学習を行わず，授業時間50分をフルに教科書あるいは問題演習に充てた。

教科書を用いた授業の進め方は基本的には2年次と同じとしたが，音読後の活動ではスピーキングまたは日本語要約（字数制限あり）を行った。どちらにするかは新型コロナウイルスの感染状況次第で決定した。要約を行う時期は感染状況が良くなかったため，対面でのペア活動を控え，代わりに生徒が教室中を歩き回って机の上に置かれたクラスメイトの要約を読むという形式をとった。その後リライトし，3名の評価を受けるという流れで行った。

3年次のパフォーマンステストは1回のみで，教科書本文を用いたスピーチとした。難易度の異なる2種類のテストから，どちらに挑戦するかを生徒が選択できるようにした。

問題演習については，2学期中間考査までは平均週1回程度行い，2学期中間考査後はすべての時間を演習とした。時間内に全員が同じ問題に取り組むことにはこだわらず，志望校に応じて要約を課したり，和訳問題を追加したりしながら，生徒が各自で考え，選択して取り組むことができるようにした。

英語表現Ⅱ（2単位）

試用教材：Steady Steps to Writing（数研出版）

システム英作文（桐原書店）

- ・1学期 典型的な和文英訳の授業。生徒板書を担当教員が添削。帯活動として、毎回の授業冒頭で文法項目別の小テストを行った。
- ・2学期 予習の取り組み具合、生徒の定着度といった観点から、授業スタイルを鑑み、「相互添削」を中心に授業を展開した。帯活動はそのまま、解答を先渡しし、生徒どうしの添削活動に転換。授業者は机間巡視し、質問に対応した。解答は先渡しせず、最後に机間指導での質問を全体に共有するなど、簡単な解説で授業を締めくくった方が、生徒の理解につながったという反省はあったが、相互添削に取り組んだ意義は大きかったように感じている。

(3) 74回生（現高校2年生）

2年	コミュ英(4) 真木		表ⅡA(1) 荒納	表ⅡB(1) 荒納
1年	コミュ英(3) 真木	表ⅠA(1) 阿部, 真木	表ⅠB(1) 阿部	

【1年次】

コミュニケーション英語Ⅰ（3単位）

使用教材：FLEXⅠ（増進堂）

Corpus4500（東京書籍）

Blossom2（文英堂）

- ・4月～5月の2ヶ月間は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン講義を展開。休業期間中の取り組みに関しては本校の『高校教育研究 第72号』What we have done —English lesson under the situation of social distancing—を参照のこと
- ・6月からの対面一斉授業ではTANABU Modelを参考に、各レッスンの4パートをインプット回（教科書の内容+重要表現）とアウトプット回（5種類の音読+リテリング）の2部構成で展開（以下

TMFS：TANABU Model×FUZOKU Style）。予習と週末課題は一切なし（帯活動単語テストの自学のみ）。

- ・TMFS ver.1（6月）：語彙に焦点を絞って、教科書は単語と表現を中心に指導。

インプット回：①教科書の重要表現確認／②内容に関する英問英答（教科書付属+自作）

アウトプット回：①Chunk Reading／②Sentence Reading／③Overlapping／④Sight Translation／⑤Wormhole Sentence／⑥Retelling

- ・TMFS ver.2（7月以降）：授業評価でリスニング活動への要望が高かったため、冒頭に聞き取りで教科書内容を概要を把握する活動を導入。

①リスニング×4コマ並び替え（教科書付属の手書き風画像データ使用）／②教科書の重要表現確認／③内容に関する英問英答

- ・TMFS ver.2.1（10月以降）：表現の意味を調べるだけでも取り組みの差（主に活動にかかる時間の差）が大きく、また定着がみられなかったため、演習形式に変更。

①リスニング×4コマ／②重要表現演習問題／③内容に関する英問英答（完全自作）

- ・TMFS ver.2.2（11月以降）：リスニング活動の目的を書き取りとし、メモをペアでシェアした後にスクリーンで4コマ並び替えに変更。

①リスニングでパートの概況把握（メモをピアチェック）／②重要表現演習問題／③内容に関する英問英答

- ・TMFS ver.2.3（2月以降）：4コマ並び替えを完全に廃止。リスニング活動をペアでシェアした後、すぐスクリーン上にT/F問題を提示。

①リスニングでパートの概況把握（メモをピアチェック）／②T/F問題／③重要表現演習問題／④内容に関する英問英答

- ・帯活動：単語テスト（解説含め10分程度）。Corpus 4500（東京書籍）を1年間（6月～2月）

で1週のペースで出題。出題範囲は各ステージ約120語からランダムに25語ずつ。教科書が1レッスン4パート構成のため、1レッスン全4回の小テストで120単語中100語の出題。生徒が全120単語を繰り返し学習する仕組みとして、30語ずつ区切った出題ではなく、毎回120語からランダム出題とした。一年次はアクセントや単語の意味を4択で答える選択形式で出題（時間短縮のため）。

英語表現 I A

使用教材：自作プリント

週1コマ。ALTとのチームティーチング。200～300words程度の題材を用意し、インフォメーションギャップ状態によるリテリング活動を行った。

また、各学期に1～2回スピーキングのパフォーマンステストを実施した。形式は以下の通り。

- ①レシテーション
- ②インタビュー
- ③ペアスピーキング

英語表現 I B

使用教材：

『Vision Quest English Expression I』

週1コマ。文法シラバスに基づくPPP形式での講義・演習を行った。

【2年次】

英語 II（コミュニケーション英語 II / 3単位）

使用教材： FLEX II（増進堂）

Corpus4500（東京書籍）

Vintage（いっずな書店）

授業内容：

本稿執筆段階の12月まではTMFS（TANABU Model×FUZOKU Style）の授業形式を継続。ただし、3学期（1月以降）は大幅な改変を予定（後述）。

・TMFS ver.3（5月以降）：リスニングの目的を

ディクテーションに変更。書き取り箇所ごとにポーズをとり、「聴きながら書き取り」ではなく「聴いて書き取り」形式で、聴き取れている／いない箇所の見える化を徹底。また、活動どうしのつながりを再考し、演習（と解説）を最後の活動として位置付けた。更に、アウトプット回では、音声によるSight Translation（授業では「つうやくごっこ」と呼称）を取り入れた。

インプット回：①ディクテーション／②T/F問題（自作）／③背景知識の解説（日本語）／④重要表現演習問題（+解説）

アウトプット回：①Chunk Reading／②Sentence Reading／③Overlapping／④Sight Translation／⑤Wormhole Sentence／⑥Back Translation／⑦Retelling

・TMFS ver.3.1（10月以降）：より実践的な（具体的には模試で通用する）リスニング力に対する要望が高かったため、試験対策のためだけの活動にはならないよう注意しながら（＝よりコミュニケーション的な活動を目指して）マイナーチェンジを施した。

インプット回：①内容に関する問題を提示（T/F問題+記述問題）／②リスニング活動を通して解答（ペアでチェック）／③解説時、必要に応じてディクテーション／④背景・周辺知識の解説（TED）／⑤教科書重要表現の演習問題

・TMFS ver.4（1月以降予定）：1パートの語彙量の増加に伴い、従来の活動継続が困難に。具体的には、7種類の音読活動を50分で完結することが不可能に。そのため、アウトプット回は一部分を抜き出した音読や、ディスカッション、ディベートといった高次の表現活動への移行を検討中。また、インプット回では、教科書そのものを初見問題として扱い、これまで取り組む機会の少なかった、速読や和訳といった活動をコミュニケーションに導入予定。

英語 P (コミュニケーション英語Ⅱ / 1 単位)

使用教材:

A) 『CNN Workbook Extended Course 2021』(朝日出版社)

B) 『Jigsaw Intro』(センゲージラーニング)

授業内容:

週1コマ。パラグラフ・ライティングとリスニング活動を扱った。

① 講義・演習(プリント):

パラグラフの内容一貫性(coherence)と、文と文の結束性(cohesion)について

② リスニング/ノートテイキング/音読(CNN)

③ 文章構造のモデル分析(CNN, Jigsaw)

④ 入試問題ライティング(プリント):

解答例分析とリライト

表現ⅡA(英語表現Ⅱ / 1 単位)

使用教材: 自作プリント(JET作成)

授業内容:

JET1名, ALT2名で実施。教室は、一斉に行ったり、2つに分割したりして適宜行った。

・1学期

個人・グループプレゼンテーションを行う予定であったが、個人プレゼンを終えた5月下旬にコロナ状況が悪化。そのため、スピーキング活動からリスニングならびにライティング活動に移行。SDGs関連のトピックを扱ったTEDを用いて、リスニング活動ならびに内容把握を行い、最後トピックに関連する短いライティング活動を課した。

・2学期前半

コロナの状況がまだ悪かったため、1学期同様にTEDを用いたリスニング・ライティング活動を行った。

・2学期後半

パーラメンタリーディベートを、コミュニケーション英語と共同で行った。

表現ⅡB(英語表現Ⅱ / 1 単位)

使用教材:

『Vision Quest English Expression Ⅱ』(啓林館)

授業内容:

表コマ: 隔週。基本例文を大切にしながら、文法事項を確認し、和訳問題に取り組む。1コマで1レッスン

①基本例文音読

②ペアワーク

基本例文 英語→日本語

日本語→英語

基本例文一部変更 日本語→英語

③和訳問題

裏コマ: 隔週。巻末の単語集を用いて、それらの単語を用いた表現活動を行う。

①単語チェック

②ペアワーク

単語: 英語→日本語

日本語→英語

単語を用いた文を各自で作成 日本語→英語

③お題が与えられ、それらに対して1~2分間のスピーキング活動(ペアもしくはグループ)

(4) 75回生(現高校1年生)

1年	コミュ英(3) 阿部	英表Ⅰ(2) 荒納
----	---------------	--------------

【1年次】

コミュニケーション英語Ⅰ(3単位)

使用教材(帯活動用):

A) 『発音入門音トレーニングドリル』(アルク)

B) 『ユメタンライティング(1)高校標準編』(アルク)

C) 『スピーキングジムスタンダード』(数研出版)

D) 『LISTENING NAVIGATOR 3』(Z会)

E) 『夢をかなえる英単語 新ユメタン(1)大学合

格必須レベル』（アルク）

使用教材（主活動用）：

- X) 『FLEX ENGLISH COMMUNICATION I』(増進堂)
- Y) 『Side by Side Extra Book & eText 3』(PEARSON)
- Z) 『CNN Comprehensive Trainer 2022』(朝日出版社)

授業内容：

帯活動(10～15分) + 主活動(30～35分) + 振り返り活動(5分) の組み合わせで1コマを展開した。予習を前提とせず(帯活動のEを除く)、各自で復習と定着活動を行ったかどうかを、定期考査で評価した。各活動の具体的内容は以下の通り。

帯活動：

- A) 発音練習(1学期)
- B) ディクテーション/音読(1～2学期)
- C) ペアスピーキング/モデル文章音読(2～3学期)
- D) リスニング問題演習/ディクテーション/音読(2～3学期)
- E) フレーズ穴埋め小テスト(通年)

主活動

- X) (1～2学期)《表コマ》
 - ① 単語チェック(5～10分, 個人→ペア→全体)
 - ② ジグソーリーディング(約20分, グループ活動)
 - ③ 内容理解 T/F問題(3分)

※帯活動はB) またはD) をおこなう

- X) (1～2学期)《裏コマ》

- ① ディクテーション(穴埋め, 15分)

- ② 音読(チャンク→シャドーイング, 10分)
- ③ 文構造分析(文型・品詞・構文把握5～10分)
- ④ サイトトランスレーション(日→英, ペア, 5分)

※帯活動はA) またはC) をおこなう

- Y) (通年)《ALTとのチームティーチング》

- ① インプット(例文解説→音読)
- ② 定着活動(スピーキング, ペア活動)

※帯活動はE) で固定

- Z) (3学期)《予定》

- ① 単語チェック(3～5分, 個人→ペア→全体)
- ② リスニング/ノートテイキング/内容理解質問(10分)
- ③ リーディング/内容理解問題/穴埋め(5分)
- ④ 音読(オーバーラッピング→シャドーイング)
- ⑤ アウトプット活動(ライティング/スピーキング)

振り返り活動：

オリジナルのハンドアウト(A3縦)「Study Log」を配布し、①その日に行った活動 ②学んだこと・感想 ③パートナーからのコメントを記録させた

英語表現 I (2単位)

試用教材:

Vision Quest English Expression I

授業内容:

基本例文を大切にしながら、文法事項を確認し、和訳問題に取り組む。

①基本例文音読

②文法説明

③ペアワーク

基本例文 英語→日本語

日本語→英語

基本例文一部変更 日本語→英語

④和訳問題

4. 生徒到達度の違い

授業形態は違うが、GTECの点数データと比較してみても、顕著な違いは見えてとれない。ただ、例えば音読に力を入れることが、必ずリーディングにつながるわけではなく、どこに表れるかは実際には不透明である、ということは読み取れるのではないかと思う。

新学習指導要領になり、観点別評価がなされることで、制約を受けつつも、今までも表現活動を続けてきた本校にとってはプラスに働くこともあるのではないかと考えている。この授業形態の洗い出しをもとに、今一度考察を行い、授業の更なる発展を目指していきたい。

資料提供: ベネッセコーポレーション 様

注: 進研模試・Gtecとのクロス分析

(1) 72回生(現大学1年生)1年次

集計人数:113人		単位:人	対象:全組									
2018年度 進研模試1年生7月記述	S1	20									4	15
	S2	16									7	9
	S3	27							1	14	12	
	A1	14							1	13		
	A2	18							4	13	1	
	A3	14								8	6	
	B1	2							1	1		
	B2	2								2		
	B3	0										
	合計	113	0	0	0	0	0	1	17	57	35	0
合計		0	100	200	300	400	500	600	700	800		

2018年度 GTEC33回Basic

72回生(現大学1年生2年次)

集計人数:113人		単位:人	対象:全組									
2019年度 ベネッセ総合学カテラスト1年生7月記述	S1	16								1	6	9
	S2	31								6	17	8
	S3	21								19	9	2
	A1	14								10	4	
	A2	19								11	8	
	A3	9							1	8		
	B1	1								1		
	B2	2							1	1		
	B3	0										
	合計	113	0	0	0	0	0	0	2	48	44	19
合計		0	100	200	300	400	500	600	700	800	900	

2019年度 GTEC37回Advanced

(2) 73回生(現3年生)1年次

集計人数:117人		単位:人	対象:全組										
2019年度 ベネッセ総合学カテラスト1年生7月記述	S1	31								11	11	6	3
	S2	17								10	7		
	S3	30							2	22	6		
	A1	18							3	15			
	A2	9							4	5			
	A3	5							1	4			
	B1	5								5			
	B2	0											
	B3	0											
	C1	2							1	1			
合計	117	0	0	0	0	0	2	19	63	24	6	3	
合計		0	100	200	300	400	500	600	700	800	900		

2019年度 GTEC37回Advanced

73回生（現3年生）2年次

集計人数:116人 単位:人 対象:全組

2020年度 ハ・ネッセ総合学力テスト2年生7月記述	S1	14						5	8	1	
	S2	18						9	8	1	
	S3	19					3	12	4		
	A1	18				1	8	9			
	A2	19					14	5			
	A3	16				3	9	4			
	B1	6				1	4	1			
	B2	4				1	3				
	B3	0									
	C1	1				1					
	C2	1				1					
	合計	116	0	0	0	1	0	7	41	45	20
	合計	0	100	200	300	400	500	600	700	800	900

2020年度 GTEC41回Advanced

74回生（現2年生）2年次

集計人数:117人 単位:人 対象:全組

2021年度 ハ・ネッセ総合学力テスト2年生7月記述	S1	13						3	9	1	
	S2	15						3	5	6	
	S3	19					1	5	12	1	
	A1	22						11	8	2	
	A2	21						15	6		
	A3	15						5	8	2	
	B1	3						2	1		
	B2	6						2	4		
	B3	2						2			
	C1	0									
	C2	1						1			
	合計	117	0	0	0	0	0	9	50	38	18
	合計	0	100	200	300	400	500	600	700	800	900

2021年度 GTEC47回Advanced

(3) 74回生（現2年生）1年次

集計人数:118人 単位:人 対象:全組

2020年度 ハ・ネッセ総合学力テスト1年生7月記述	S1	18						7	8	3	
	S2	16					1	6	6	3	
	S3	24					3	15	5	1	
	A1	22					3	19	1		
	A2	26						11	18		
	A3	8						6	2		
	B1	2						1	1		
	B2	2					1	1			
	B3	0									
	合計	118	0	0	0	0	1	26	64	20	7
	合計	0	100	200	300	400	500	600	700	800	900

2020年度 GTEC41回Advanced

(4) 75回生（現1年生）1年次

集計人数:117人 単位:人 対象:全組

2021年度 ハ・ネッセ総合学力テスト1年生11月記述	S1	20						3	8	8	
	S2	11						1	10		
	S3	27						9	12	1	
	A1	16						2	14		
	A2	25						8	19	2	
	A3	13						6	7		
	B1	5						3	2		
	B2	0									
	合計	117	0	0	0	0	0	17	53	37	9
	合計	0	100	200	300	400	500	600	700	800	900

2021年度 GTEC47回Advanced